

岐阜県の プラスチック

工業組合が総会を開催。新事業に雇用管理推進事業を決める
栗原和夫・環境コンサルタントを招いて講演会開く（講演要旨紹介）
新装の検定会場で技能検定と特別講習会
岐阜県が廃棄物対策の推進でリサイクル実験プラント開発
デザインの心
組合員の工場訪問
事務局だより

平成8年度の事業計画や予算を決めた第28回通常総会



新事業に雇用管理推進事業

工組とデザイン協会の総会開く

視察は幕張メッセの国際プラ展

岐阜県プラスチック工業組合は、5月24日午後、岐阜市内にある岐阜グランドホテルで『第28回通常総会』と『プラスチックデザイン協会第34回通常総会』を開催した。工業組合の議題は①平成7年度の事業報告・収支決算②平成8年度の事業計画・収支決算③平成8年度の賦課金及びその納入方法について④平成8年度取引金融機関及び借入金最高限度額一など5議案である。

なお、総会を記念し東京から、廃棄物学会研究委員会経済学部会会員で環境コンサルタントの栗原和夫氏（杉山栗原環境事務所所属）を招き『廃棄物処理とプラスチック』をテーマに講演してもらった。（講演要旨は6～7頁に紹介）

大松理事長「県の振興策を支えに悪環境の克服を…」

通常総会は大野副理事長の開会あいさつで始まり、続いて大松理事長が「経済の動きは難しい局面を迎えている」と前置きし、次ぎのように呼びかけた。

「難しい局面とはPL問題、廃棄物処理、さらに企業経営の根幹を揺るがす問題として価額破壊による利益の悪化を、どのように是

正すればよいかということです。それには新しい技術開発による、新しい製品づくりに尽きると思う。これをプラスチック業界全体の問題として考えると、まず工業組合の結束と努力、さらに岐阜県のいろんな技術研究機関とタイアッ



雇用管理推進事業などの事業計画や予算を承認した総会

プし、より強力な技術振興を図らねばならぬと思う。幸い梶原知事を頂点とする県関係の皆さんは、時代の波を先んじて察知し、いろんな技術振興策を講じておられ、業界はこれを支えに悪環境を克服、飛躍したい」。

事業計画、予算など全議案可決

新年度予算総額は3,966万円

議事は最初に①平成7年度の事業報告と総額3,844万余円にのぼる平成7年度の決算②11項目にのぼる平成8年度の事業計画と総額3,966万余円の収支予算③平成8年度の賦課金及び納入方法④平成8年度の取引金融機関および借入金最高限度額一の4議案を審議し、原案どおり可決した。

このうち主な平成8年度の事業計画をみると

①指導教育事業は、国、県、中小企業団体中央会ほか公社、公団等の関係機関と連携し、組合員のための研修会、講演会、セミナーなどの事業に積極的に参加、活力と創造性を持った組合員の育成を図る。

②新技術開発には技術者養成が欠かせないため、県職業能力開発協会からの技能検定受託事業である『プラスチック成形射出成形作業』を7月に、また『プラスチック成形用金型製作作業』を12月に実施、技術の向上に努めていく。

さらに技能検定試験の合格率向上と受検者の安全を図るため、事前の特別講習会を6月と12月に実施する。

幕張メッセで開くプラ展を視察

③〈新規事業〉視察研修事業として10月に幕張メッセで開催予定の『国際プラスチックフェア'96 (IPF)』を見学する。この見本市はジャパン・プラに匹敵するプラスチック専門の見本市として開催が期待されているもので、プラスチック原材料・成形品から成形機・周辺機器、さらに技術情報にいたるまで、国内外のプラスチック関連企業が出展予定される。

詳細は組合事務局が、10月13日(月)から14日(火)にわたる1泊2日の予定で、バス旅行を企画し

ている。

職場環境や雇用管理の改善で研修

④廃棄物処理問題は業界の緊急課題であるため『廃棄物処理とプラスチック』をテーマに研修講演会を行う。この事業は総会記念事業としてすでに実施、その講演要旨は、6～7頁で紹介した。

⑤情報提供事業は、例年どおり会報『岐阜県のプラスチック』を年6回発行し、組合員に必要な経済・業界情報を提供する。また、工業組合の理事会、役員会の協議事項、組合運営や事業内容について詳細報告する。

このほか工業技術センターが発行する「技術情報ぎふ」を配布するほか、組合員に必要な国・県の施策などを情報提供する。

労働保険の事務代行事業も行う

⑥共済事業では、ディーラーや取扱店と提携し銀行口座引落方式による自動車購入ローンを実施、組合員企業および従業員の利便を図る。また、組合員の事業活動に必要な離型剤・薬品などの希望品目をあっせんし、企業活動の効率化を図る。

⑦金融事業では県、政府系金融機関等が実施する運転・設備資金の融資および各種中小企業制度融資を組合員に情報提供し、組合員の希望に応じて制度の指導、あっ旋、助言を行い、経営の安定に役立ててもらおう。

⑧事務代行事業は、労働保険の事務委託事業(労働保険事務組合の認可)として、組合員に代わって業務を行う。

時短やりサイクル問題で再検討

⑨調査研究では適宜・適切な情報や施策を組合員企業に提供するため、会報記事として収集

また、中小企業施策担当の諸団体と連絡協調して収集、提供する。

⑩福利厚生事業では、組合員の親睦交流・連携を図るため新年互礼会、組合員の健康づくり・親睦ゴルフ大会、慶弔見舞いなどを実施、組合の円滑な運営と組織の強化・活性化に役立てていく。

⑪組合賛助会員制度の拡充と強化と組合員企業の技術開発および営業活動の効率・安定化を図るため、賛助会員を新年互礼会に招いて、交流の場として定着を図っていく。

⑫検討事項としては、平成9年4月からすべての事業所に週40時間の法定労働時間が適用されることもあって『労働時間短縮』の問題、また容器包装リサイクルの実施にともなう「プラスチック廃棄物の処理・再資源化対策」を重点テーマに、組合としての対策を検討する。

業界ぐるみで雇用管理推進事業

⑬〈新規事業〉大松理事長が総会で行った今年度事業の基本方針にもあったように、中小企業が新分野・新製品の開拓を展開するには不断

の事業再構築が欠かせない。それには雇用面の充実、若年労働者や優秀な人材の確保、従業員の福祉向上などに取り組む必要がある。このため岐阜雇用促進センターからの受託事業として『事業再構築雇用管理推進事業』を実施し、業界ぐるみの発展・振興策を練りあげる。

なお、事業内容の詳細は次号の会報から逐次紹介していく。

プラスチックデザイン協会も総会 講習会や研修会などへの参加

工業組合の総会に続いて岐阜県プラスチックデザイン協会も通常総会を開き、平成8年度の事業計画と予算を決めた。

年間予算は16万円で、事業は①デザイン講習会1回②デザイン関係の資料配布、年間2～3回③岐阜県デザイン振興会主催の各種デザイン関係の研修会、講習会、セミナー、異業種交流などへの参加④工業組合会報の企画記事として『デザインのこころ』を掲載し、組合員にデザインの重要性と考え方を普及啓蒙していく一などを実施する。

隔月に研修事業行う

親組合の事業に積極参加
青年部の新年度事業計画

工業組合の青年部は5月11日、岐阜市内のスポーツパルコで川瀬忠雄部長ら部会員19人が参加して第15回通常総会を開き、新年度の事業実施計画を決めた。

新年度の活動目標は『次代を背負うリーダーとしての意欲に燃え、親組合への事業協力を通じて時代のニーズに応じた研修、自己啓発、情報交換、部員相互の親睦を図っていく』に置き次の事業を実施していく。

7月研修会は工場の視察研修、9月研修会は親睦研修旅行で、今年度は海外研修も含めて企画する。研修会事業は隔月ごとに行うことを予定しており、残る11月と平成9年3月にも研修会を実施していく。

なお、1月は新年互礼会として開催するほか親組合が実施する事業に積極的に参加する。また、岐阜県中小企業青年中央会が主催する各種事業に参加し、他の組合青年部の人たちと交流を図っていく。

事業予算は162万円を予定し、親組合からの助成、会費、特別会費などであてる。

施策を活用し苦況乗り切りを…

久富・県商業振興課長ら来賓が組合員を激励

工業組合は総会に県関係者ら多数の来賓を招いた。このうち久富義郎県商工労働部商業振興課長と佐竹一良県工業技術センター場長の二人から激励の祝辞をうけた。

久富商業振興課長は「経済の動きはようやく上向きになってきたものの、一方で円高を背景とする生産工場の海外流出、リストラ、規制緩和などと構造的な問題が顕著に現れ、中小企業を取り巻く環境は厳しいものがあります。プラスチック業界においては、これに加えて技術者不足やリサイクル問題など多くの課題を抱えておられる」と産業界の現況を見通したあと、

「このため県の商工労働部は①景気対策②産業構造の高度化③安定した雇用労働環境の整備—の3本を施策の柱に進めていく。具体的には金融の円滑化をはじめとする景気回復対策、産業の情報化、ハイテク・ハイタッチ化、技術開発力や研究開発力の強化、さらに雇用面では新規学卒者、中高年齢者の雇用確保などに取り組んでいく方針であり、施策を期待し、また活用してもらいたい」と述べた。

リサイクルに全試験機関で取組む

佐竹場長は「4月に着任したばかりですが、昭和45年からしばらくプラスチック業界の方々と一緒になって試験研究に携わった経過があります。当時の県内のプラスチック製造出荷額は、年間約800億円でした。現在は大手のフィルム・シートを合わせて3,000億円に達している。



左から久富課長と佐竹課長

戦後、盛衰を繰り返してきた県産業の中ではきわめて順調な発展を遂げ、今日では繊維工業や食品工業とほぼ同じウェイトにまでのし上げ、県内七大産業の一つとして、基盤をしっかりと確立してきた」と、プラスチック業界の成長ぶりを指摘し、さらに

「プラスチックに携わった当時の課題は、日用品から工業部品の成形に移ったところで、試験研究機関としても成形精度の安定化や製品の難燃化をテーマに取り組み、業界の発展を支援してきました。現在の研究テーマは、複合化とリサイクル問題です。とくにリサイクル問題では梶原知事から全試験研究機関を挙げて取り組み、解決するように指示を受けたところです。この4月からは県に科学技術振興センターが設けられ、農政、林政、衛生環境、それに商工労働の各部局にある18試験研究機関が統合、知事直轄の効率的な試験研究に取り組んでいくことになりました。その最初のテーマがリサイクルで、個々の企業では対応できない分野に全力挙げて進むので、期待してもらいたい」と話した。

「企業の責任と負担は拡大へ」 プラスチック廃棄物処理の方向

工業組合は5月24日午後、岐阜市内にある岐阜グランドホテルで通常総会を開いたが、その総会を記念し、東京から廃棄物学会研究委員会の経済学部会会員で、環境コンサルタントの栗原和夫氏（杉山栗原環境事務所所属）を招いて『廃棄物処理とプラスチック』をテーマに講演してもらった。

栗原講師は大学及び大学院で環境化学工学を専攻した後、(株)オストランドの主任研究員を務めた環境工学専門の学者。講演ではプラスチック廃棄物対策の最新情報について、スライドを使いながら講演してもらった。次は主な講演要旨である。

廃棄物の排出は20年で3.5倍

〈プラスチック処理の現状〉 プラスチックはいろいろな特性を持つことから、生活に欠かすことができない材料になっている。その結果、生産量が急速に伸び、1972年から20年間に約2倍に成長した。同時にごみとして捨てられる量も増え、1972年に190万6千トンのものが、20年後には690万トン（うち産業廃棄物は300万トン）にも達している。内容的にも一般廃棄物、産業廃棄物の区別なく増え、20年間で3.5倍の驚異的な伸びを記録した。

処理方法では焼却が350万トン（52%）埋め立てが255万トン（37%）リサイクルによって有効利用されているのが75万トン（11%、うち一般廃棄物は1%弱）に分かれる。

処理上の問題点が多すぎる

〈プラスチック処理の問題点〉 各地の自治体でプラスチックごみが分別収集されているが、その処理方法は①未処理のまま埋める

②可燃ごみとして集め、焼却する③破砕機にかけ、埋める④熔融して固めたり、圧縮・減容化して埋める⑤固形化し、燃料として使用する—など、バラエティーに富んでいる。

自治体としての本音は「焼却し、体積を小さくして埋めたい」と思っている。しかし、廃ガスの発生などにより住民批判が強く、処分場新設には限界がきている。これに地球環境の問題が加わり、今後の処理対策は厳しくなるばかりである。

処理上の問題点は①かさばる②分別収集で住民の協力が得られにくい③異物が付着している④複合材が多く、リサイクルしにくい。⑤焼却した時に高熱が発生する。反面で熱エネルギーとして利用できる⑥塩化水素やダイオキシンが発生する。添加剤などが混入している—など検討すべき問題点は数多い。

〈プラスチックの減容・資源化技術〉 資源化の面からみると、再生、減容化、固形燃料化、油化の方法がある。固形燃料化は、生ごみとして集めた中からプラスチック、紙、



プラスチック廃棄物の処理対策で講演する栗原講師

木などの可燃ごみばかりを集め、炭カルなどを入れて固形化し、燃料として使う。

エチレン化などの油化技術は、国のリサイクルの主体になっている。プラスチックを高温で熱し、触媒で反応させ、ガスや液体の低分子にして再利用する方法である。

もう一つは、自治体でプラスチックごみをそのまま燃やし、発電に利用する動きが高まってきたこと。ただし、燃焼の際、廃ガス中に微量の有害成分が含まれ、ボイラーの熱交換器を腐食させるからだ。このため蒸気温度を300度以上の高温にできず、発電効率が悪くなる結果が出ている。

資源化の方法をまとめると①ごみになる材料は使わない②繰り返し利用できる材料を使う③使用前と同じ製品ができるようにする④再生できないものは熱エネルギーとして利用する—ことをプラスチック材料使用の優先順位にすべきではないか。

生産工程の段階から対応策

〈今後の課題〉 処理技術を確立するだけでなく、廃棄物発生抑制が先ずもって大

切である。リサイクル処理で企業に課せられることは、やはり選別に不可欠な表示マークを必ず付けること。使用する樹脂を統一し、分解してプラスチック部分を取り外しやすいようにすることである。生産工程の段階から、リサイクルを考えていきたい。

容器包装リサイクル法は今年6月から実施段階に入るがドイツなどの海外と異なる点

は消費者、自治体、産業界がそれぞれ責任を分担しあうことになっている。消費者は分別収集に協力し、自治体は集めて再資源化できるまでに選別、業界が引き取りリサイクルしていく。

将来は工場環境監査実現

今後を展望すると①処理費用は受益者負担の原則は変わらない②廃棄物の発生を考えた生産や販売を行い、生産工程の段階から処理対策を進めていく③環境監査を行う。工場の生産工程でどんな廃棄物や廃ガスが出るか、環境への影響を監査する—ことが考えられる。

他にLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）という動きがある。物は作ってから廃棄するまで、一連の動きがあるのに部分的にしか見られていない。これを原材料の段階から、製品を使い終わって廃棄物となるまでを一連のものと考え、どうすれば環境に影響しないかを調べていく手法である。

すでに欧米では行われている。導入されると、企業に課せられる責任と負担はますます大きくなり、成形業界に影響がでてくる。

新装の会場で講習会と技能検定

「ハイテク時代」一、二級で61人参加

工業組合は岐阜県職業能力開発協会からの受託事業として、6月27日から7月18日までの16日間、岐阜県工業技術センターで平成8年度の『プラスチック射出成形技能検定試験』を実施する。これに先立ち6月18日から3日間、『特別講習会』を行い、基本からみっちり勉強、レベルアップを図り、検定試験に備える。

検定会場となる工業技術センターの実験室はこれまで成形機の更新と圧力アップ、金型移動クレーンや照明装置の設置など、相次ぎ整備が行われた。今年度はさらに樹脂の新型乾燥装置が設置され、一層精度の高い成形作業が実施できるようになり、成果が期待される。

1級受検や新規受検はいぜん多い

今年度のプラスチック射出成形の受検者は、

20社に1社は後継者がいない

中小企業の20社に1社は、後継者がいない。帝国データバンクがまとめた『中小企業の後継者事情調査』によると、首都圏・近畿圏の10万3,568社のうち「後継者がいない」企業が5.8%もあり「わからない」を含めると60%以上の企業で後継者が決まっていない。

業種別では卸売、サービス業に多い。すでに決まっている約4万社の中では、現社長の「配偶者・子供」とする世襲派が約半分を占め、その他の親族を含めると66.5%にも達する。

実技、学科ともに1級16人（学科だけは2人）2級は50人（学科だけは3人）の合計66人。作年度に比べると、1級は6人多く、2級は19人少ない。2級受検者が少ないのは作年度、留年組を中心に大量合格者を出したからで、新規受検や留年1～2回組はいぜん多く、ハイテク時代にふさわしい技能検定になりそうだ。

技能検定に先立って開催する特別講習会は、6月18日から3日間、実技検定試験会場と同じ工業技術センターの3階講堂と成形機のある実験室で行われる。講習内容は①技能検定の受検対策と傾向②成形材料と射出成形条件③射出成形機の取り扱い—など講義と実習を繰り返し、合格率向上と技能レベルのアップをめざす。

とくに講習会場で成形不良品の現物を展示するなど成形不良対策に力をいれたり、学科の模擬試験を行い、例年の講習会とは異なる徹底した講習を行う予定である。

実技の技能検定は、2級の検定が6月27日から7月12日までのウイークデー12日間、また、1級の検定は7月15日から4日間。いずれも午前、午後に別れて2人ずつが行う。実技の採点日は7月25日から2日間、工業技術センターに中川徹首席検定委員はじめ委員、補佐員全員が集まって行う。

学科試験は8月25日岐阜大学で

学科試験日は8月25日(日)例年どおり岐阜大学で、全国统一のもとにペーパーテストが行われる。合格者の発表は10月3日(木)に岐阜県公報に掲載され、岐阜県・岐阜県職業能力開発協会から通知される。

リサイクルを徹底推進

県の廃棄物推進本部

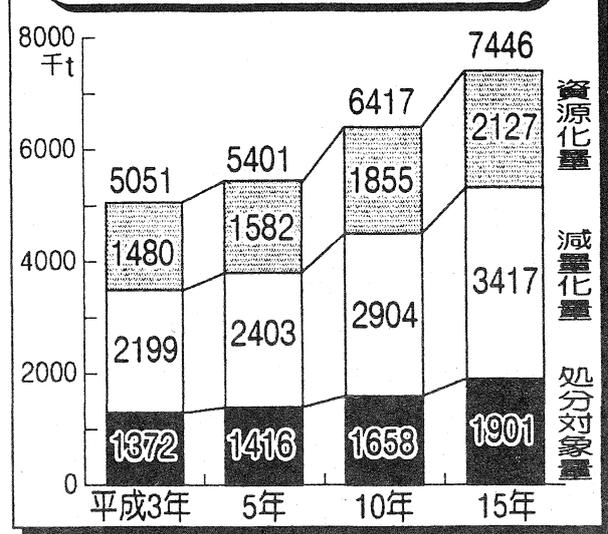
実験プラントの開発も行う

岐阜県は廃棄物対策に全庁を挙げて取り組む『岐阜県廃棄物対策推進本部』（本部長・梶原知事）を設置し、5月29日に初会合を開き、活動開始した。廃棄物処理をめぐる問題が深刻化する中で、リサイクル化を柱に各種施策を機動的に推進する体制を整えたもの。構想ではリサイクル実験プラントの設置などに取り組み、県が率先してリサイクルの徹底を図っていく。

国内の産業廃棄物発生量は、平成5年の540万トから、平成15年には744万トに達する見通しである。こうした産業廃棄物を処理する最終処分場も、年々増え続ける廃棄物によって残余容量、残余年数も少なくなりつつある。

初会合では①廃棄物の発生抑制とリサイクルの徹底②廃棄物処理施設の監視強化や廃棄物の

産業廃棄物発生量の将来予測



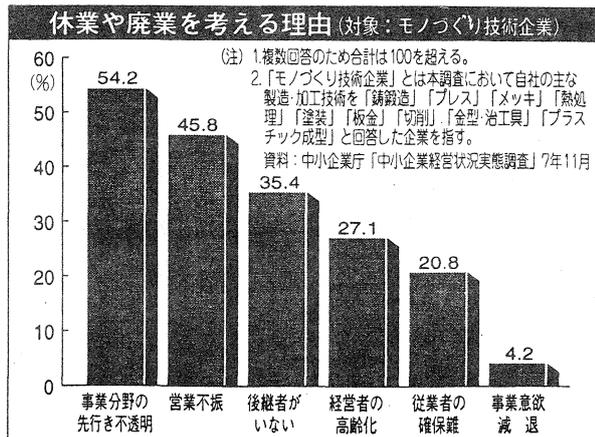
不法投棄の取り締まり強化③環境美化の推進などの事業方針が打ち出された。

とくにリサイクル技術の開発と実践のため、県内18試験研究機関を統合した科学技術振興センターを活用して、プラスチック廃棄物などのリサイクル実験プラントを開発研究する予定で大きな期待が寄せられている。

高コスト構造を是正せよ

競争力の強化図れ・中小企業白書

平成8年度の中小企業白書『中小企業の時代—日本経済再建の担い手として』が公表された。それによると中小製造業は、採算悪化と親企業の海外展開に伴い受注動向が読みにくく、



経営環境はいぜん厳しい。とくに鋳鍛造・プレス、メッキ、熱処理・塗装・板金・切削・金型・治工具、プラスチック成形などのモノづくり企業や産地は衰退（左のグラフを参考に）の懸念が生じている。

また、下請け分業構造も変化している。これによって受発注量は減少し、親企業の要求も品質・精度面で高度なもの、多品種小ロット、納期の短縮が求められている。今後、親企業が下請企業を選定する際には「専門的技術」や「製品・技術開発力」が重視される。

中小製造業の競争力を高めるために「規制緩和（物流、エネルギー、金融、サービスなど）による国内の高コスト構造の是正が必要」とし中小企業間で連携を強め、大企業に対抗できる新製品や技術開発に取り組めと提案している。

デザインの心ー7

『ルーラル・ランドスケープ・デザインの手法』

岐阜県プラスチックデザイン協会

平成6年から8年の3月頃にかけて、約二年ほどの期間であったが、朝日新聞の日曜版に『風景考』という連載があった。毎日曜日を楽しみに愛読されていた方も多いと思う。

今回は、この『風景考』に掲載された印象的な「風景」を改めて眺めてみたい。そして、風景の形成に及ぼすデザインの関わりがあれば、その一端をかい間見てみたいと思う。

『風景考』…。普段我々が何気なく見過ごしている。人の生業により決定づけられた良しも悪しきも様々な風景が身近に存在していることを改めて教えられた。たとえば、青森県津軽地方の横なぐりの地吹雪に耐えるため「カッチョ」と呼ばれる風垣を家屋にめぐらせた北の海ならではの風景。和歌山県有田川中流の狭く険しい地形の中で稲作を営む知恵が作り出した不思議な形の水田群風景。茅葺き屋根が1ヘクタール余の田んぼを防風林のように取り囲み珍しい環状集落を形成する新潟県高柳町の風景——貧しさの象徴としてマイナスの資源であった茅葺き集落を再評価して快適なふるさとづくりを押し進める風景でもある。そして、樹齢が不明なほどの古木に、毎年2本の鎌を打ちつづける石川県鹿西町鎌宮諏訪神社の神事は、長い歳月をかけて木肌に幾多の鎌を飲み込んだ異様な古木の形態を現し、能登の荒ぶる自然から集落を守る願いを託す象徴的な風景となっている。岐阜県の郡上八幡では、町を囲む山からの湧き水と長良川に注ぐ吉田川の豊かな水を日常生活に取り込み、今なお健在な水循環システムを現代に誇示する風景がある。

これらの風景はいずれも、その地特有の地形・風土の中で、農業の便、用水や道の確保、

風よけのための屋敷林、暴風等に対する安全を願う鎮守の古木等々、生活を守る必要から村や町をつくりだしたプロセスであり、同時に心のよりどころと機能を損なわない美意識を配慮しつつ、人々が汗して培った風景である。地味ながらも本物の美が潜む風景として大切にすることを強く願いたい。

一方では、人間優先の理念をかかげて歩行者・自転車専用道路を設け、公園緑地を配置し、見苦しい電柱を排除し、地域冷暖房や集じんシステムを共同溝に収めるなど、すべてに合理的で、清潔で絵のような都市空間をめざした筑波学園都市の様な風景もある。また人間の食料増産の夢を担ってムツゴロウの住みかを埋め立ててしまい、広々とした光景にまっすぐな道路を走らせた合理的な佐賀県有明町の干拓地もある。

この『風景考』の中で「私の景観論」を記述した東京農大教授の進士五十八氏は、効率第一主義と工学技術への絶対的信仰の上に成り立った現代の人工都市環境に対して、「ルーラル・ランドスケープ・デザインの手法」を提唱している。ルーラルは田園、田舎であり、百姓たちの景観デザインの手法を意味している。洪水、雪害などをさける敷地計画。背後の山から屋敷林、前畑、池、水田、地下へと流れる水の循環システム。環境保全型の営農方式。生物共生型の川や用水づくりなどである。「百姓のデザイン」技術の再編実用化、言い換えれば都市の農村化が豊かな風景をよみがえらせるという図式の提案である。

工業技術センター Y. Hasegawa

成形→塗装→組立ての一貫生産工場

東北ムネカタ(株)岐阜工場

今回の工場訪問は、新しく組合へ加入した東北ムネカタ(株)岐阜工場（海津郡南濃町徳田榊野宗形年潤社長、従業員150人）を訪問した。ムネカタの名は岐阜ではあまり知られていないが、テレビや家電、AV機器、パソコンなどの業界では「海外にも工場を持つ、大型キャビネット類の一貫生産メーカー」として名高い。

その岐阜工場は5年前、岐阜県と南濃町から誘致をうけて進出、ムネカタ(株)（本社高槻市）の主力工場として稼働した。さらに今年、組織変えが行われ、福島市にある東北ムネカタ(株)の化成品部門・岐阜工場（細川英利工場長）として再スタートを切ったばかりである。

県内で最大級の1,600トン成形機

工場は大垣から南下した国道258号線と県道の南濃一関ヶ原線が合流する地点。ちょうど名神と東名阪の高速道路のほぼ中間、成形品をユーザーへ納品するのに恵まれている。池のある

広い用地は、実に4万5千平方メートルもあり、規模の大きさにまず驚かされる。そこにスパン170メートル×50メートルの長大な成形工場と二つの大型倉庫が建ち、まるで体育館を幾つも並べたようだ。

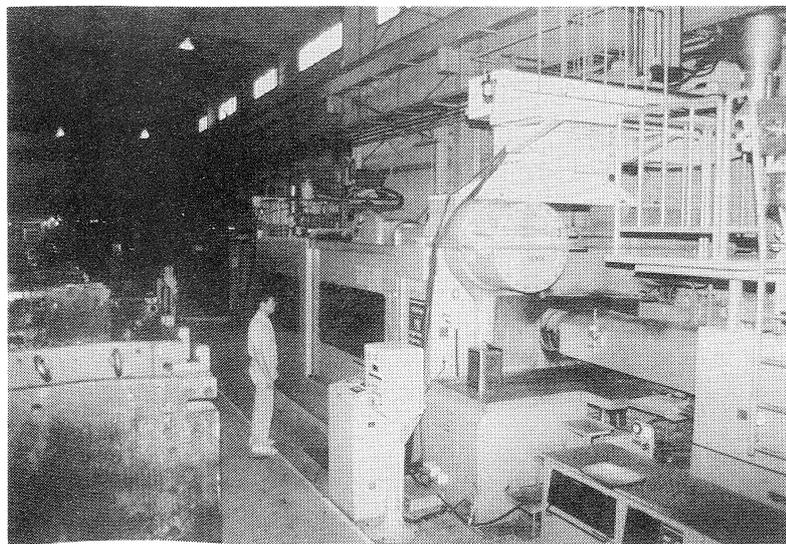
二度目の驚きは、細川工場長に案内された成形工場。1,600トン、1,300トン、850トンという大型成形機がずらり並ぶ。とくに、1,600トン成形機は県下では最大級を誇る。

国際化に備えISOの認定工場に

自慢の成形機を前に細川工場長は「大型化したテレビやエアコンの成形には、これくらい力がないと打てません。他社に誇れるのは成形するだけではなく、塗装→組立て→検査→梱包へと連なっていくコンベヤーラインです」と話す。しかも立体倉庫と連動した一貫生産体制は、すべてオートメ化され、インパルス溶着機など自社開発した自動機器も随所に使われている。

組合に入ったきっかけは…と、水を向けると「技能検定ですよ」と言い切る。成形要員の半数12人が検定取得者で「岐阜県では平成6年くらい3人合格し、今年は3人受検します」と話す細川工場長の目がキラリ光る。

「国際化の波に打ち勝つには技術レベルを上げ、高い品質を保つことです。このため昨年からグループ企業挙げて、技術レベルのアップに取り組んでおり、岐阜工場はいち早くISO9002の認定を取得したところですよ」と、大きく胸を張る。



1,600トンをはじめとする大型成形機12機が並ぶ成形工場

事務局だより

会員と事務局を結ぶページ



□総会への出席有難うございました□

平成8年度の新事業計画やその事業予算を決める工業組合とプラスチックデザイン協会の総会は5月24日、多数の組合員が出席し、開催しました。総会内容はトップ記事で紹介しましたが大松理事長をはじめとする役員を中心に、事業の数々に取り組んでいきます。

上の写真は総会後の懇親パーティで、参加した各組合員が大いに交流を深めました。

□大垣プラスチックの日比さん急逝□



工業組合の理事として活躍されました大垣プラスチック工業(株)会長の日比正隆さんが、4月26日に永眠されました。ご冥福をお祈りします。享年78歳でした。

□6月26日に親睦ゴルフ大会を開催□

工業組合主催の『第4回理事長杯争奪組合員健康づくり・親睦ゴルフ大会』を、6月26日に岐阜カンツリー倶楽部で開催します。すでに参加者は決まりましたが、4パーティー、16人がダブルベリア方式で、親睦ゴルフを行います。

□新しい事務局長の井森さんです□



この4月から新事務局長として着任された井森秀敏(しゅうほう)さんです。

井森さんは「県職員時代の経験を活かして、微力ながら工業組合の運営に誠心誠意努力し、皆様方、企業およびプラスチック業界の発展に役立っていきたい」と意欲をみせておられます。よろしく

岐阜県のプラスチック 1996 129号

平成8年5月31日発行

発行 岐阜市六条南2丁目11番地1号

(岐阜産業会館4階)

電話 (058) 272-7173

FAX (058) 276-1525

岐阜県プラスチック工業組合

発行責任者 井森 秀敏

ポリエチレン

スミカセン®

エチレン酢酸ビニル共重合樹脂

エバテート®

ポリプロピレン

住友ノーブレン®

ポリスチレン樹脂

エスブライト

塩化ビニル樹脂

スミリット®

メタアクリルシート

スミペックス®

メタアクリル樹脂

スミペックス-B®

高密度ポリエチレン

スミカセンハード

熱可塑性エラストマー

住友TPE®

合成ゴムSBR

住友SBR®

合成ゴムEPR

エスプレン®

エチレン酢酸ビニル

塩化ビニル共重合樹脂

スミグラフト®



住友化学工業株式会社

名古屋支店

〒460 名古屋市中区錦1丁目11番18号(興銀ビル)

電話 <052> 201-7571

出光の石油化学製品

ポリスチレン

スチレン系耐熱樹脂

ポリカーボネート

GFPET

ポリプロピレン

高密度ポリエチレン

直鎖状低密度ポリエチレン

カルプ®

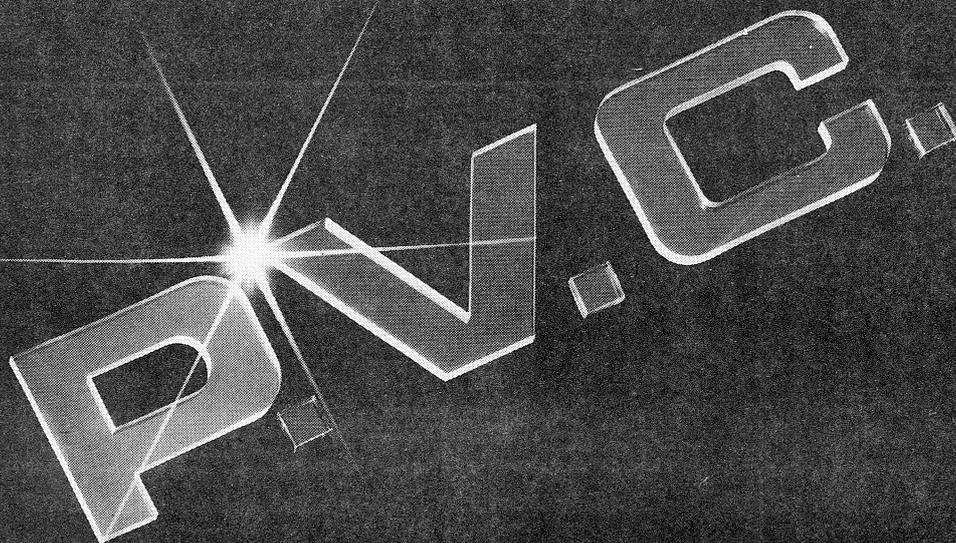
 出光石油化学株式会社

東京都千代田区丸の内3-1-1(国際ビル) 〒100 ☎03-213-9361(代)

名古屋支店 名古屋市中区栄2丁目1番地1号 日土地名古屋ビル5F 〒460 ☎052-204-6051-3

ShinEtsu 信越PVC

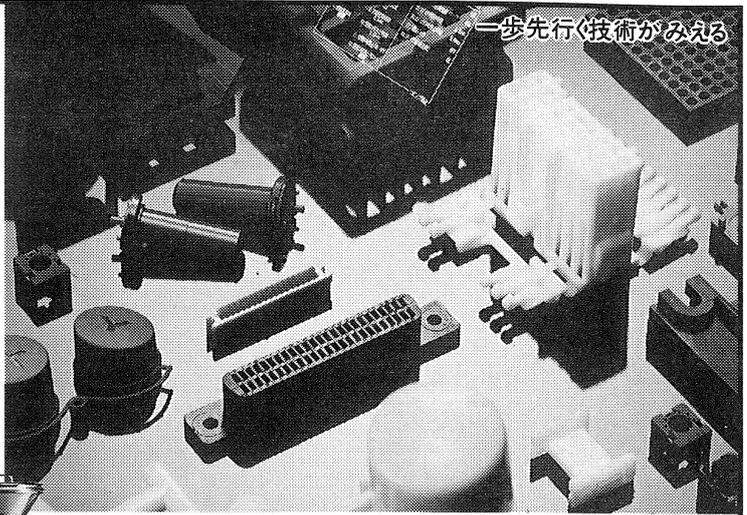
生活用品からエレクトロニクス材料まで——信越PVC



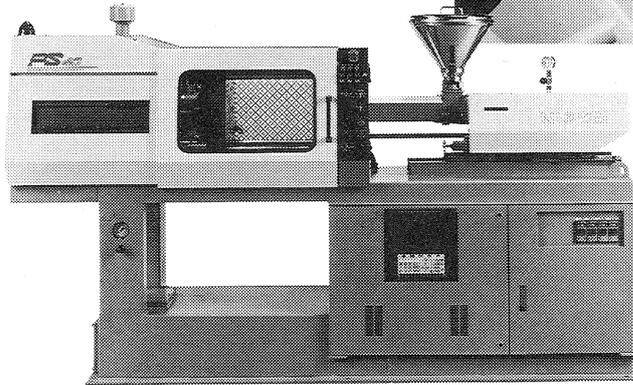
信越化学工業株式会社 名古屋支店 〒450 名古屋市中村区名駅4-27-23(名古屋三井ビル東館)
☎(052)581-0651

精密成形を究めると PSシリーズになる。

最新の電子コントローラを搭載し、射出性能と操作性を向上させ、FA対応においても一層の高性能化を図りました。新感覚の生産工場を実現する価値ある射出成形機、それがNISSEIのPSシリーズです。



一步先行く技術がみえる



NISSEI

日精樹脂工業株式会社

名古屋営業所/愛知県小牧市外堀2-167 ☎0568-75-9555(代)

岡崎出張所/愛知県岡崎市上六名4-1-8三剛ビル1F ☎0564-52-1430

三重出張所/三重県津市神戸横田203-4 ☎0592-24-0716

●本社・工場・技術研究所/長野県坂城町南条2110 ☎(0268)82-3000(大代表)

●東京事務所 ●テクニカルセンター/本社・相模原・岩槻・名古屋・大阪

●営業所/全国11ヶ所 ●出張所/全国20ヶ所 ●海外サービスステーション/28ヶ所

ハイテクノロジーに挑戦

MEIKI

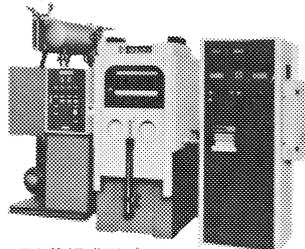


ディスク専用機

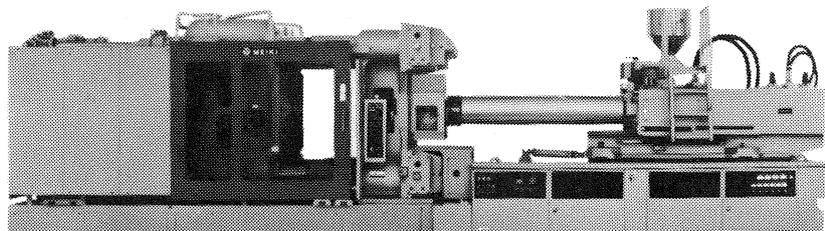


セラミック専用機

プラスチック、光ディスク、ファインセラミック射出成形機、IC基板成形プレス等、先端技術加工機を生産して、世界の名機として活躍しています。



IC基板成形プレス



プラスチック射出成形機



株式会社 **名機製作所**

本社・工場

〒474 愛知県大府市北崎町大根2 ☎(0562)48-2111(代)

化学の、もっと大きな可能性へ。

私たちがめざすのは、新しい時代の化学会社。

よりグローバルに、よりダイナミックに、もっと大きな可能性を求めて、

三菱化学は世界の期待に応えます。

三菱化学

三菱化学株式会社 東京都千代田区丸の内2-5-2 〒100(三菱ビルディング) Telephone:03-3283-6274(ダイヤルイン)



生きてる素材。

三菱レイヨンのプラスチック

メタクリル樹脂 / 板状品

アクリライト[®]

メタクリル樹脂 / 射出成形材料

アクリペット[®]

ABS樹脂

ダイヤペット[®] **ABS**

三菱レイヨン

東京(272)4321 / 大阪(202)2241 / 名古屋(561)6711

ESPRIX EARTH SPIRIT

エスプリックス

行きはボックスとバスケットにいっぱい詰めて出発。ランチタイムにフタを開けばテーブルに早変わり。帰りは、バスケットをボックスに入れコンパクトに収納できる便利なレジャーボックスです。(フタの内側は、収納スペースになります。)



ボックスがテーブルに早変わり



ダブルボックス

 リス株式会社

岐阜プラスチック工業株式会社

- 本社: 岐阜市神田町9丁目25番地(大岐阜ビル6階)
- 生産本部: 各務原市前渡東町4丁目222番地

岐阜プラスチックグループ

- リス興業(株)
- 東北リス(株)
- 四国リス(株)
- リスパック(株)
- 東京リス(株)
- 九州リス(株)
- リス(株)
- 大阪リス(株)
- リスエンジニアリング(株)